



中高生とともに差別と闘う

『人権こども塾』レポート 狭山事件～ヘイトスピーチ

吉成タダシ (うずしおブランチ代表)



十月十六日 狭山事件

これは、知らないなんてあり得ないくらい、私が絶対に取り組みたかったテーマです。しかし残念ながら今では、ほとんどの先生方には難しい内容です。それでも、元被告人である石川一雄さんにとつてゆかりの深い地として、多くの人、多くの中高生に知ってほしい事件だと思っていました。

私が十三年間通った地域の隣保館に、事件当時から詳細を知る地元の方を招いて中学生に話をしてもらうのですが、中学生にとっては大きな驚きです。何しろ、まだ免疫のない中学生にとつて警察や裁判官は、絶対に間違ふことのない、「正義の象徴」だったのですから。

第三次再審請求中ということもあって、結論めいたことを言うことは控えましたが、事件にまつわる数々の事実、検察の主張、石川さんや弁護士団の主張、そして裁判官の判断、日本の司法制度、石川さんの人柄を、映像を交えて話をしてもらいます。事件に部落差別問題が大きくかわっていることを知ります。子どもたちは食い入るように話を聞きます。

最後に、話をいただいた方から、「勉強をすること。正しいかどうかを考える眼を持つてほしい。差別をする、されるではなく、なくす側になってほしい」との言葉をいただきました。やはり狭山学習は、やっておかねばならない、やるだけの価値のあるテーマだと実感します。

感じます。

【塾生の感想：一部抜粋】

「世の中にはおかしいことがいっぱいあると思った」

「検察側が有利になっている制度はおかしい」

「裁判は人生を大きく左右させるものであって、不快にさせるようなことは許されない」

十一月六日 人形のムラ

これも、地元の人間としては外せないテーマです。「阿波木偶箱まわし」の拠点です。国内外数々の賞を受賞し、今でこそメディアや地元紙も大きく取り上げたり、徳島阿波おどり空港を降りた真正面にはバーンと大きく写真が飾られてたりするので、どこかで見聞きしたことのあるテーマでしょうが、その内容まで詳しく知ることはありません。そのディープな部分を知っておいほしくて、実際に行つてほしくて、企画しました。

私たちともつながりの深い会長さんから、地元にもつわるいくつもの昔話を興味深くうかがいます。そして、途切れかけていた箱まわしのルーツを知ります。またそれを復活させるべく立ち上がった仲間の話の話を聞きます。もうそれは、偉人伝に他なりません。そして仲間たちの力も借りながら、廃所になった保育施設を買取り、自ら改装し、自分たちの施設「人形のムラ」を開館させたいきさつを聞きます。そして、いよいよ改装された「人形のムラ」に。真新しい木の香り。所狭しと並べられた、煌びやかな人形たち。からくり人形の数々。やはり、連れて来てよかった、と思わせられました。実際に来て、見て、感じ、そこで人に出会い、話を聞き、体温を感じる。そんな学習に勝るものはありません。

学校という大きな単位では来ること困難ですが、この規模なら、それも可能です。機動力があります。そこに、人権こども塾の可能性を感じます。

十一月二十七日 ヘイトスピーチ

学校現場でなかなか取り組みられないのが、在日問題。なぜ？どうして？と何年も何十年も、ずっと感じてきました。ずっとずっと問題提起してきたものの、どうにも受け入れられない。子どもたちの中には県外に進学し、関西など都会に行けば必ずのようにぶつかる問題なのに、どうして？今、学ばせておかないと、子どもたちはいつか困りますよ。そんな思いを抱き続けてきた在日問題。

そんな在日へのヘイトスピーチ襲撃事件が起きたのが、二〇一〇年四月のことでした。私も、当事者としての一人です。この襲撃は、あまりにもひどい。その事実、同じ県内にいる人でさえ、あまり知りません。それだけ世情に無関心だということでしょう。

当時現場にいた方から直接お話をいただきます。初めは、現在日

本で暮らす外国籍の人数について。そして、元社会科教員として、日本と朝鮮との歴史的関係について。特に、近・現代の状況についての話は深刻でした。

そして、襲撃時に撮影されていた蛮行の動画。何度も見ているのに、年月は経っているのに、それでも身の毛がよだつような感覚になります。体も心臓も凍りつき、身構えてしまします。これは映画の一幕か？本当にあったことなのか？こんなことがあつていいのか？そんな思いに駆られます。

話をされる方の、「つらくてつらくて逃げたかった」という99%の思い。「差別から逃げたらアカン」という1%の思い。裁判に向けての朝鮮学校の方々からの、「共に生きていこう！」とのメッセージ。本当に心が大きく揺さぶられる、涙涙の時間となりました。

「教育に国境はあつてはならない」最後にいただいたメッセージです。やはりこれも、学校でいてはなかなか得られない学びとなりました。

実はこの話には、おまけができました。せっかく意欲的に学んでいるのだからと、友好関係にある朝鮮学校と一緒に交流に行きませんか？との誘いをいただいたのです。この秋のイベントです。「焼肉も食べられますよ」の一言に、子どもたちは大盛り上がり！(笑) そんなレポートもまた読んでもらえると嬉しいですね。(つづく)